

## NHK「白熱教室 JAPAN」をご視聴されて、このページをご覧になっている方へ

宇佐美 誠

私の担当科目「法哲学」がNHK Eテレ「[白熱教室 JAPAN](#)」（2011年6月26日、7月3日、10日、17日の午後6:00~6:58）で放送されて以来、たくさんの方々からお手紙・お葉書やメールをいただいています。毎回の講義で挙げた〈ケース〉に対するご自身のご解答や、番組へのご感想、いくつかのご質問など、大きな反響におどろくとともに、大変ありがたく感じています。また、放送に触発されて、若干の高校・大学で討論型授業が試みられているとのご連絡も頂戴しており、うれしく思っております。これまでご連絡を下さったすべての方々に、心からお礼を申し上げます。

本来ならば個別にお返事を差し上げたいところですが、何分にもご連絡が多数に上るため、日頃の学務・公務に加えてお返事に時間を割くことがむづかしい状況です。そこで、一括してお礼を申し上げますとともに、とくに多かったご質問にお答えすることで、個別のご返答に代えさせていただきたいと思っております。

Q 毎回の授業の〈ケース〉の正解は何ですか？

A 正解はありません。どんな意見をもつかでなく、その意見を支える理由は何か、重要なのです。

Q 他の回の授業でつかった〈ケース〉があれば、教えてください。

A すべての回の授業で〈ケース〉をつかっています。ご関心のある方は、[東工大 OCW](#)のなかの「法哲学」の[講義ノート](#)で、各回の「予習用設問」ファイルを開いてください。

Q 学生の発言はかなりしっかりしていて、またその発言に対して即座に対応していますが、学生と事前の打合せやリハーサルをしているのですか？

A 打合せもリハーサルも一切していません。学生は、あらかじめ配られた予習用コピー資料を読み、また授業中の発言の質と量によって平常点がつきます（[講義概要・シラバス](#)）。そこで、よく準備した発言が多くなるわけです。他方、私も大学教員は、例えば学会大会では研究報告を行った後にさまざまな質問に答え、シンポジウムやワークショップでは他の研究者たちと意見交換を重ね、大学では大勢の学生に学位論文指導を行うなど、他人の発言に即座に学問的応答をするよう求められる場面が多いため、そうした能力を身につけているのです。

Q 授業で話していた内容を研究しているのですか？

A 授業内容のなかでは、第2回放送「正義は世代を越えられるか」に関する研究を、1990年代から続けています。第1回放送「正義は国境を越えられるか」についても、2000年代から論じています。他の研究テーマも含めて、詳しくは本サイトの[宇佐美誠の研究成果](#)をご覧ください。

Q 授業の内容を、本でも読んでみたいのですが。

A お待たせしました。放送された回の内容に未放送分の一部も加えて、間もなく本が出版されます。宇佐美誠『その先の正義論——宇佐美教授の白熱教室』武田ランダムハウスジャパン、2011年11月25日発売予定（[目次・概要](#)）

[ホームへ戻る](#)